

あいち森と緑づくり事業
アンケート結果

＜県民・県政お届け講座アンケート＞

令和5年1月

愛知県

IV 里山林整備事業について.....	46
(1) 里山林整備による公益的機能回復の必要性の認知度.....	46
(2) 里山林整備とSDGsの関係.....	48
(3) 里山林整備事業の認知度.....	50
(4) 「あいち森と緑づくり事業」による里山林整備の認知度.....	52
(5) 里山林整備事業の継続.....	54
V 都市緑化推進事業について.....	56
(1) 都市の緑の公益的機能の認知度.....	56
(2) 都市緑化推進事業の認知度.....	58
(3) 住まいの周辺の緑.....	60
(4) 都市の緑を増やしていくための取組.....	62
(5) 都市の緑に関心を持つための取組.....	63
(6) 都市緑化推進事業の継続.....	64
(7) 都市緑化の推進とSDGsの関係.....	66
VI 環境活動・学習推進事業について.....	68
(1) 環境活動・学習事業の認知度.....	68
(2) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」の参加の有無.....	70
(3) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」への参加.....	72
(4) 環境活動・学習推進事業の継続.....	74
(5) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」とSDGsの関係.....	76
VII 普及啓発事業について.....	78
VII-① 木材利用促進.....	78
(1) 愛知県産木材の利用と森林整備のかかわり.....	78
(2) 木の語る都市(まち)づくり事業の認知度.....	80
(3) 木材の利用とSDGsの関係.....	82
(4) 木材を使った施設への期待.....	84
(5) 愛知県産木材の利用の認知度.....	86
(6) 愛知県産木材の利用の有効性.....	88
(7) 木の語る都市(まち)づくり事業の継続.....	90
VIII 「あいち森と緑づくり事業」の今後について.....	92
(1) 「あいち森と緑づくり事業」の継続.....	92
(2) 「あいち森と緑づくり税」の負担額.....	94
(3) 「あいち森と緑づくり事業」を継続した場合の取組.....	96

目次

調査概要

1 調査の概要.....	2
2 調査対象者の属性.....	3
3 サンプルデザイン(県民アンケート).....	4
4 この報告書のみかた.....	9

調査結果

I 森と緑の働きについて.....	12
(1) 森と緑の公益的機能の認知度.....	12
(2) 森と緑の公益的機能の低下に対する意識.....	14
(3) 健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性.....	16
II 「あいち森と緑づくり税」について.....	18
(1) 「あいち森と緑づくり税」の認知度.....	18
(2) 「あいち森と緑づくり事業」の取組の必要性.....	20
III 人工林整備事業について.....	22
III-① 人工林整備(間伐).....	22
(1) 人工林の間伐と公益的機能.....	22
(2) 間伐とSDGsの関係.....	24
(3) 人工林整備事業の認知度.....	26
(4) 「あいち森と緑づくり事業」による間伐の認知度.....	28
(5) 人工林整備事業の継続.....	30
(6) 防災・減災対策の継続.....	32
(7) 伐倒木有効利用の継続.....	34
III-② 花粉症対策苗木への植え替え.....	36
(1) 花粉症対策苗木の植栽と公益的機能.....	36
(2) 花粉症対策苗木の植栽とSDGsの関係.....	38
(3) 花粉症対策苗木の植栽の認知度.....	40
(4) 「あいち森と緑づくり事業」による花粉症対策苗木の植栽の認知度.....	42
(5) 花粉症対策苗木の植栽の継続.....	44

調査票

調査概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、県内の一般県民の税・事業に対する認知度・理解度等を把握し、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

(2) 調査の項目

- I. 森と緑の働きについて
- II. 「あいち森と緑づくり税」について
- III. 人工林整備事業について
- IV. 里山林整備事業について
- V. 都市緑化推進事業について
- VI. 環境活動・学習推進事業について
- VII. 普及啓発事業について
- VIII. 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

(3) 調査の設計

	＜県民アンケート＞	＜県政お届け講座アンケート＞
① 調査地域・調査対象	愛知県内居住の18歳以上の県民	調査期間内に行う県政お届け講座の受講者
② 標本数	3,000人	30人
③ 抽出方法	層化二段無作為抽出法	講座受講者全数
④ 調査方法	郵送法、インターネット回答併用	
⑤ 調査期間	令和4年10月27日～11月10日	

(4) 調査委託先

株式会社中部タイム・エージェンツ 名古屋事務所

(5) 回収結果

	＜県民アンケート＞	＜県政お届け講座アンケート＞	合計
① 標本数	3,000人	30人	3,030人
② 回収数	1,106人	27人	1,133人
③ 有効回答率	36.9%	90.0%	37.4%

県民-2

2 調査対象者の属性

【年齢】

総数	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
1,133人 (27人)	10人 (4人)	94人 (23人)	123人	181人	211人	110人	385人	19人
100.0%	0.9%	8.3%	10.9%	16.0%	18.6%	9.7%	34.0%	1.7%

【居住地域】

総数	名古屋地域	尾張・海部地域	知多地域	西三河地域	豊田加茂地域	新設設案地域	東三河地域	無回答
1,133人 (27人)	309人 (8人)	351人 (11人)	85人 (2人)	175人 (1人)	71人	8人	113人 (2人)	21人 (3人)
100.0%	27.3%	31.0%	7.5%	15.4%	6.3%	0.7%	10.0%	1.9%

【職業】

	総数	1,133人	100.0%
自営業	農林漁業	24人	2.1%
	商工サービス業	32人	2.8%
	自由業	42人	3.7%
	その他		
勤め人	管理職	91人	8.0%
	専門技術職	171人	15.1%
	事務職	153人	13.5%
	労務職	128人	11.3%
	その他		
無職	家事専業	185人	16.3%
	学生	47人 (27人)	4.1%
	その他	214人	18.9%
無回答		46人	4.1%

※県政お届け講座対象者は、() 書きで内数記載。

※回答率(%)は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。

県民-3

3 サンプルデザイン(県民アンケート)

- (1) 母集団 愛知県内に居住する18歳以上の県民
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 地点数 150
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

ア 層化

愛知県内の市町村を、市(名古屋市区)及び郡を単位として、16の調査地区にグループ化した(調査地区区分図のとおり)。さらに、各調査地区を名古屋市、その他の市と郡部(町村)の3つに分類し、それぞれを層とした。

イ 標本数の配分

各層に、その推定母集団数(令和3年10月1日現在の人口)の大きさにより、3,000人の標本数を比例配分した。

ウ 抽出の方法

- ① 第1次抽出単位となる調査地点として、令和2年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
- ② 各層における調査地点については、1次調査地点の標本数が20となるように算出し、各層内での調査地点が1地点の場合は単純無作為抽出法により抽出、2地点以上となる場合は、「層における調査地区数の合計」÷「層で抽出された調査地点数」=「抽出間隔」を算出し、等間隔抽出法により抽出した。
- ③ 各調査地点における対象者の抽出は、選挙人名簿により等間隔抽出法で抽出した。

県民-4

調査地区区分図



Table mapping investigation area numbers (1-16) to names and locations. Includes categories like 名古屋地域, 尾張地域, 西三河地域, and 東三河地域.

県民-5

調査地区別標本・調査地点数一覧

Table showing sample and investigation point counts by region: 名古屋地域, 尾張地域, 西三河地域, and 東三河地域. Columns include region, sub-region, and total counts.

上段：推定母集団
中段：標本数
下段：調査地点数

県民-6

調査地点一覧

Table listing investigation points across all 16 areas, including names and counts. Organized by region and sub-region.

県民-7

Table listing investigation points for specific areas: 豊田加茂地区, 西三河地域, 尾張東部地区, and 豊橋地区.

県民-8

4 この報告書のみかた

- 回答率(%)は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。また、小計についても同様に異なる場合がある。
- 1人の対象者に複数の回答を認めたものについては、その項目を選んだ人が回答者全体に占める割合を表しており、通常その比率の合計は100%を超える。
- 調査結果については、統計上多少の誤差(標本誤差)が生じることがあり、調査結果をみる場合には、次のような一定の幅をもたせてみる必要がある。
- 標本誤差は、次の式で算出される。

$$\text{標本誤差}(\%) = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100-P)}{N}}$$

P: 回答率(%)
N: 回答者数(人)

県民-9

調査結果

【標本誤差早見表(主なもの)】

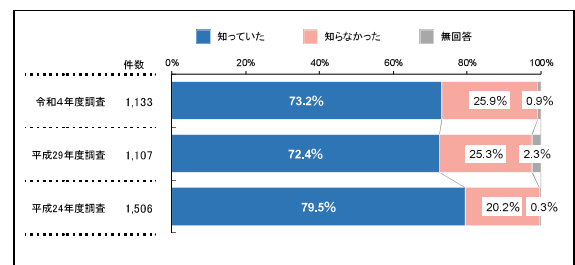
	N 回答者数 (人)	P回答率(%)									
		5又は 95	10又は 90	15又は 85	20又は 80	25又は 75	30又は 70	35又は 65	40又は 60	45又は 55	50
総数	1,133	±1.3	±1.6	±2.1	±2.4	±2.6	±2.7	±2.8	±2.9	±3.0	±3.0
年齢別	20歳未満	10	±13.8	±19.0	±22.6	±25.3	±27.4	±29.0	±30.2	±31.0	±31.6
	20~29歳	94	±4.5	±6.2	±7.4	±8.5	±8.9	±9.6	±9.8	±10.1	±10.3
	30~39歳	123	±3.9	±5.4	±6.4	±7.2	±7.8	±8.3	±8.6	±8.8	±9.0
	40~49歳	181	±3.2	±4.5	±5.6	±5.9	±6.4	±6.8	±7.1	±7.3	±7.4
	50~59歳	211	±3.0	±4.1	±4.9	±5.5	±6.0	±6.3	±6.6	±6.7	±6.8
	60~64歳	110	±4.2	±5.7	±6.8	±7.6	±8.3	±8.7	±9.1	±9.3	±9.5
65歳以上	385	±2.2	±3.1	±3.6	±4.1	±4.4	±4.7	±4.9	±5.0	±5.1	
無回答	19	±10.0	±13.6	±16.4	±18.4	±19.9	±21.0	±21.9	±22.5	±22.8	
地域別	名古屋地域	309	±2.5	±3.4	±4.1	±4.8	±4.9	±5.2	±5.4	±5.6	±5.7
	飯塚・海部地域	351	±2.3	±3.2	±3.8	±4.3	±4.6	±4.9	±5.1	±5.2	±5.3
	知多地域	85	±4.7	±6.5	±7.7	±8.7	±9.4	±9.9	±10.3	±10.6	±10.8
	西三河地域	175	±3.3	±4.5	±5.4	±6.0	±6.5	±6.9	±7.2	±7.4	±7.5
	豊田加茂地域	71	±5.2	±7.1	±8.5	±9.6	±10.3	±10.9	±11.3	±11.6	±11.9
	新緑牧場地域	8	±15.4	±21.2	±25.2	±28.3	±30.0	±32.4	±33.7	±34.6	±35.4
職業別	業三河地域	113	±4.1	±5.6	±6.7	±7.5	±8.1	±8.6	±9.0	±9.2	±9.4
	無回答	21	±9.5	±13.1	±15.6	±17.8	±18.5	±20.0	±20.8	±21.4	±21.8
	目撃者	98	±4.4	±6.1	±7.2	±8.1	±8.7	±9.3	±9.6	±9.9	±10.1
職業別	勤め人	543	±1.9	±2.6	±3.1	±3.4	±3.7	±3.9	±4.1	±4.2	±4.3
	無職	440	±2.1	±2.8	±3.4	±3.6	±4.1	±4.3	±4.5	±4.6	±4.7
	無回答	46	±6.4	±8.8	±10.5	±11.8	±12.8	±13.5	±14.1	±14.4	±14.7

県民-10

I 森と緑の動きについて

(1) 森と緑の公益的機能の認知度

問1 森と緑は、環境の保全や災害の防止など様々な公益的機能により、私たちの暮らしを支えてくれています。あなたは、このことについて知っていましたか。

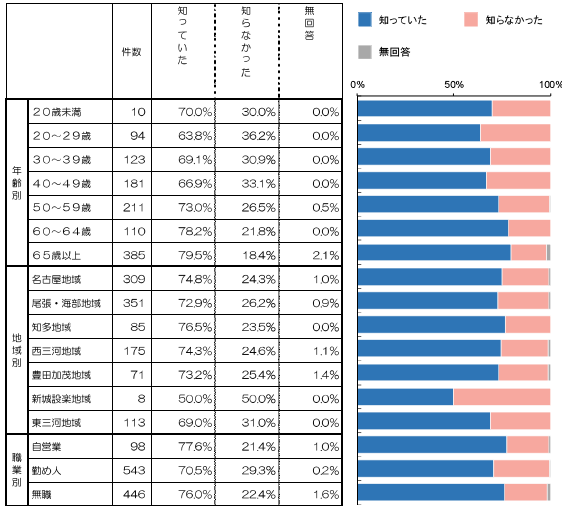


森と緑の公益的機能について、「知っていた」と答えた人の割合が73.2%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は25.9%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度調査から「知っていた」の割合が減少している傾向がみられる。

県民-12

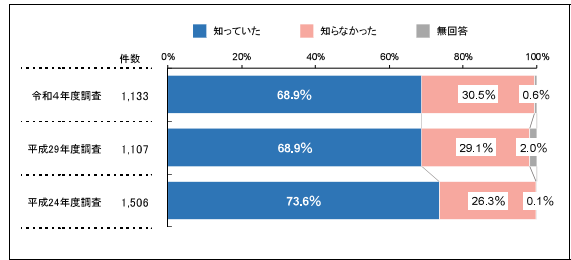
森と緑の公益的機能の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-13

(2) 森と緑の公益的機能の低下に対する意識

問2 近年、木材価格の低迷等により、森林所有者による人工林の手入れが不足したり、開発等により都市の緑が減少するなど、森と緑の持つ様々な公益的機能がだんだん低下していつてしまうことが心配されています。あなたは、このことを知っていましたか。

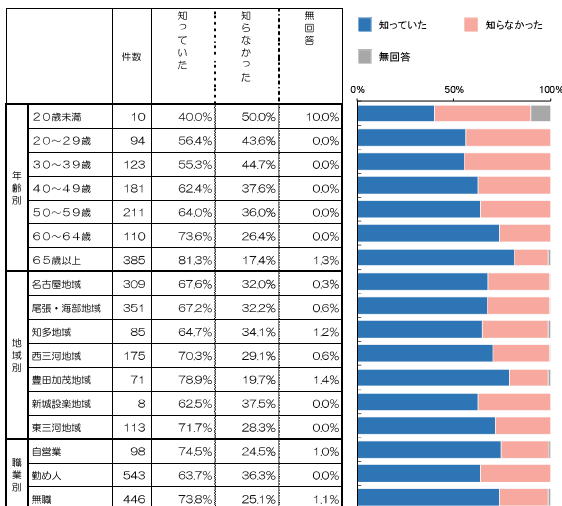


森と緑の公益的機能の低下に対する意識について、「知っていた」と答えた人の割合が68.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は30.5%となっている。

過去の調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は平成29年度調査（68.9%）から大きな変化はみられない。

県民-14

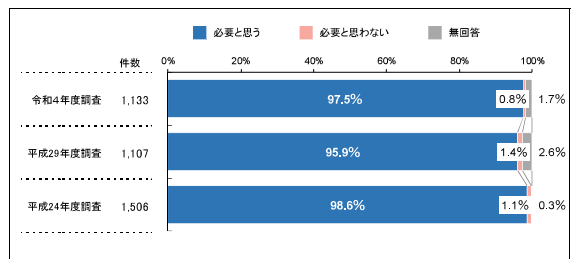
森と緑の公益的機能の低下に対する意識（年齢別、地域別、職業別）



県民-15

(3) 健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性

問3 将来に向けて健全な森や緑を引き継いでいくことについて、必要と思いますか。

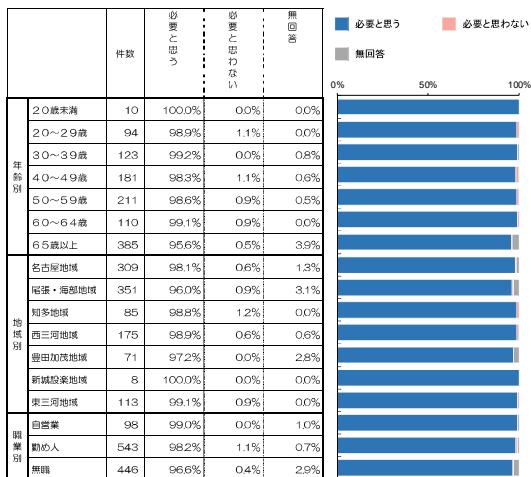


健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性について、「必要と思う」と答えた人の割合が97.5%であったのに対し、「必要と思わない」と答えた人の割合は0.8%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度、平成29年度調査同様に、「必要と思う」と答えた人の割合は高く、95%を超えている。

県民-16

健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性（年齢別、地域別、職業別）

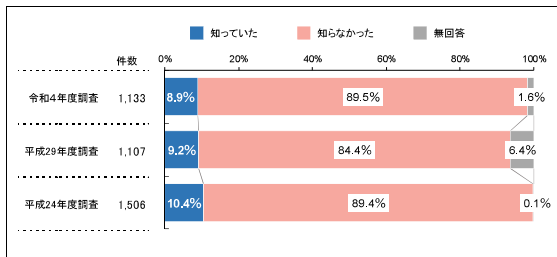


県民-17

II 「あいち森と緑づくり税」について

(1) 「あいち森と緑づくり税」の認知度

問1 このアンケート調査の前に「あいち森と緑づくり税」のことを知っていましたか。

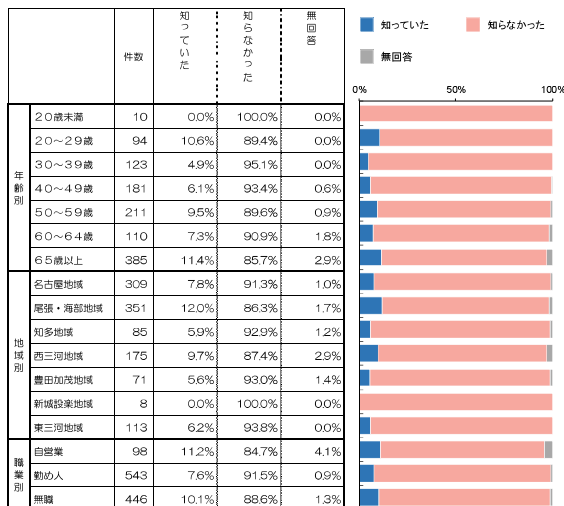


「あいち森と緑づくり税」について、「知っていた」と答えた人の割合が8.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は89.5%となっている。

過去の調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は、平成24年度が10.4%、平成29年度が9.2%となっており、減少傾向がみられる。

県民-18

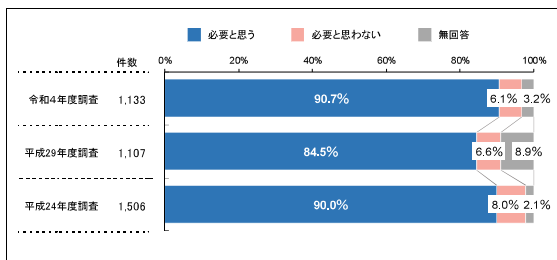
「あいち森と緑づくり税」の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-19

(2) 「あいち森と緑づくり事業」の取組の必要性

問2 「あいち森と緑づくり税」を使った人工林の間伐や都市緑化などの森と緑を守り育てる取組を必要と思いますか。

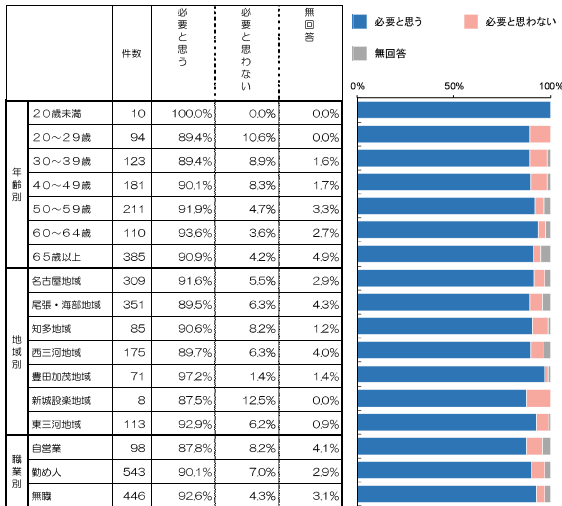


「あいち森と緑づくり事業」の取組について、「必要と思う」と答えた人の割合が90.7%であったのに対し、「必要としない」と答えた人の割合は6.1%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度、平成29年度調査同様に、「必要と思う」と答えた人の割合は高く、90%前後となっている。

県民-20

「あいち森と緑づくり事業」の取組の必要性（年齢別、地域別、職業別）



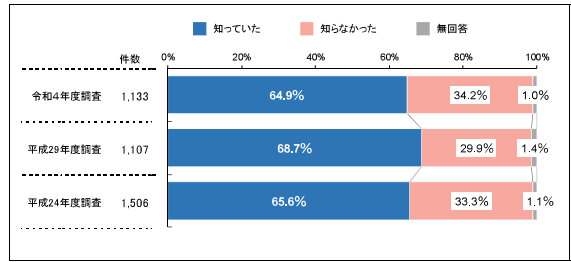
県民-21

Ⅲ 人工林整備事業について

Ⅲ-① 人工林整備（間伐）

(1) 人工林の間伐と公益的機能

問1 間伐は、森林（人工林）の公益的機能を高めることを知っていましたか。



人工林の間伐と公益的機能について、「知っていた」と答えた人の割合が64.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は34.2%となっている。

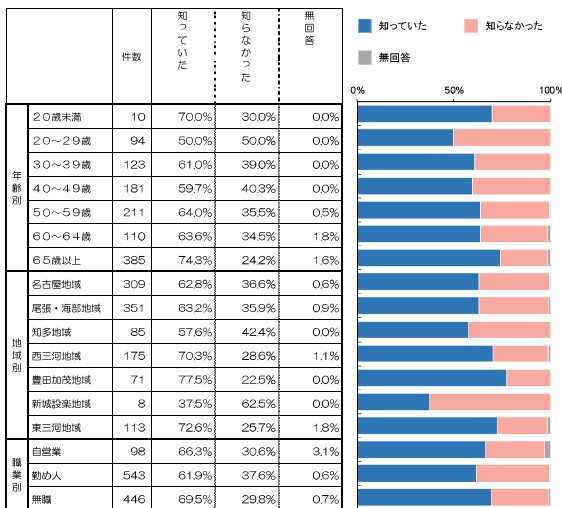
過去の調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は平成29年度調査（68.7%）と比べると3.8ポイント減少している。

「人工林整備事業」

水源かん養、土砂の流出防止等の公益的機能を発揮させるため、林業活動では整備が困難なために手入れの遅れたスギ・ヒノキの人工林を間伐する事業

県民-22

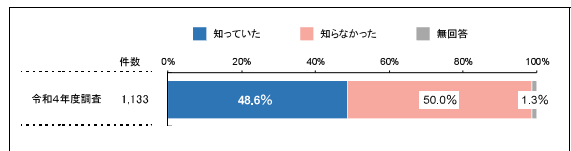
人工林の間伐と公益的機能（年齢別、地域別、職業別）



県民-23

(2) 間伐とSDGsの関係

問2 間伐は、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

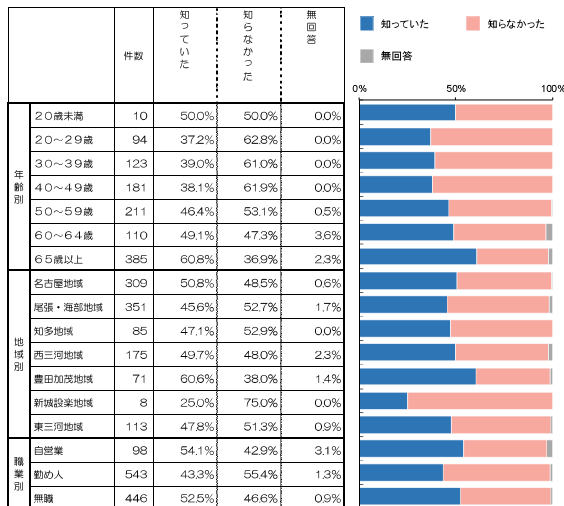


間伐とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が48.6%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は50.0%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-24

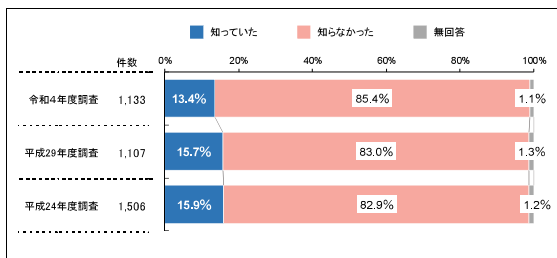
間伐とSDG eの関係(年齢別、地域別、職業別)



県民-25

(3) 人工林整備事業の認知度

問3 あいち森と緑づくり事業で、林業活動では整備が困難な人工林を間伐しているのを知っていますか。



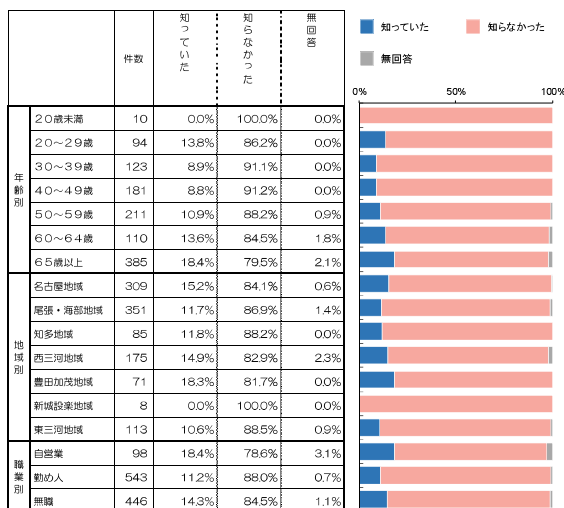
人工林整備事業について、「知っていた」と答えた人の割合が13.4%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は85.4%となっている。

過去の調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は、平成24年度が15.9%、平成29年度が15.7%となっており、減少傾向がみられる。

※ 平成24年度、平成29年度調査の設問:「あいち森と緑づくり事業で、県内の手入れの遅れた人工林を間伐しているのを知っていますか。」

県民-26

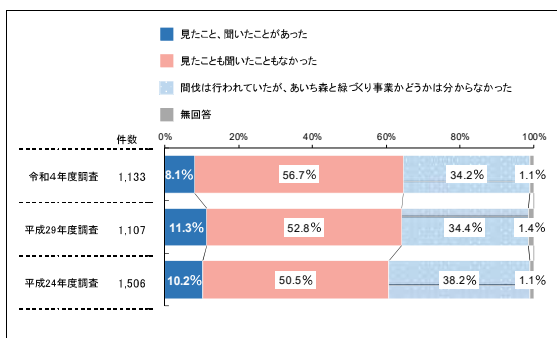
人工林整備事業の認知度(年齢別、地域別、職業別)



県民-27

(4) 「あいち森と緑づくり事業」による間伐の認知度

問4 あいち森と緑づくり事業による人工林の間伐を、見たこと、聞いたことがありましたか。

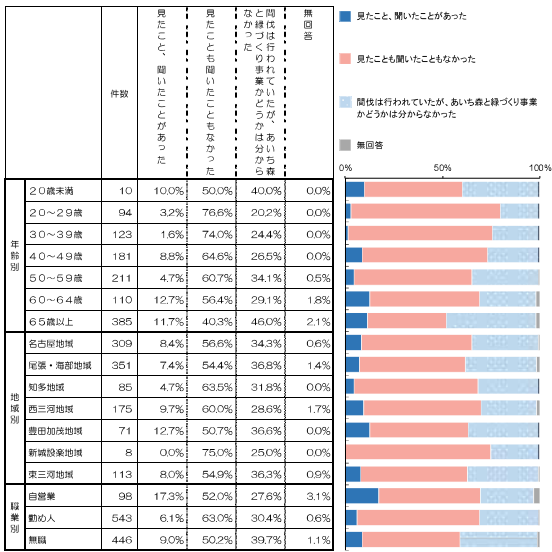


「あいち森と緑づくり事業」による間伐について、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合が56.7%と最も高く、続いて「間伐は行われていたが、あいち森と緑づくり事業かどうかは分からなかった」(34.2%)、「見たこと、聞いたことがあった」(8.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「見たこと、聞いたことがあった」と答えた人の割合が平成29年度(11.3%)と比べて3.2ポイント減少している。

県民-28

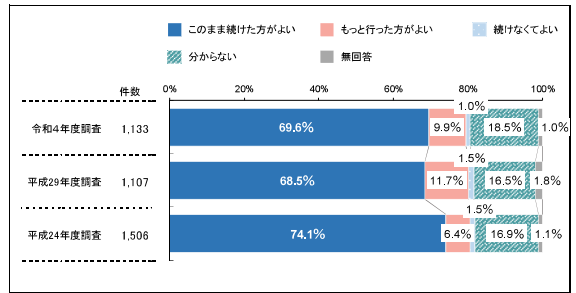
「あいち森と緑づくり事業」による間伐の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-29

(5) 人工林整備事業の継続

問5 あいち森と緑づくり事業で、今後も人工林の間伐を続けた方がよいと思いませんか。

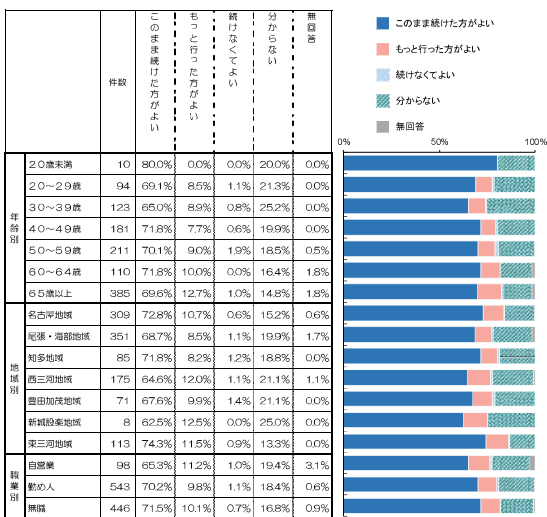


人工林整備事業の継続について、「このまま続けた方がよい」（69.6%）と「もっと行った方がよい」（9.9%）を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が79.5%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.0%となっている。

過去の調査と比較すると、「続けた方がよい」と答えた人の割合は前回調査から大きな変化はみられない。

県民-30

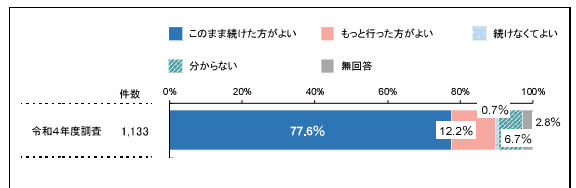
人工林整備事業の継続（年齢別、地域別、職業別）



県民-31

(6) 防災・減災対策の継続

問6 あいち森と緑づくり事業では、防災・減災対策を進めるため、道路沿い、河川沿い、集落周辺の森林（人工林の間伐に加えて、広葉樹も含む。）の整備を行うことができます。今後も防災・減災対策を続けた方がよいと思いませんか。

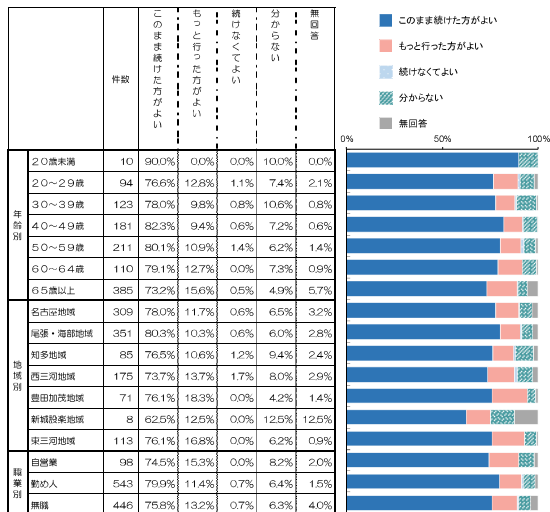


防災・減災対策の継続について、「このまま続けた方がよい」（77.6%）と「もっと行った方がよい」（12.2%）を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が89.8%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は0.7%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-32

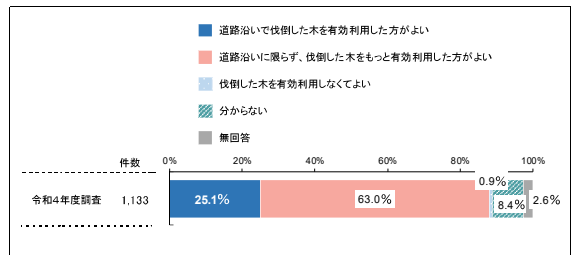
防災・減災対策の継続（年齢別、地域別、職業別）



県民-33

(7) 伐倒木有効利用の継続

問7 あいち森と緑づくり事業では、道路沿いで木を伐倒するには費用がかかりますが、森林外の安全な場所まで移動した後、木材として有効利用しています。今後も伐倒木の有効利用を続けた方がよいと思いますか。

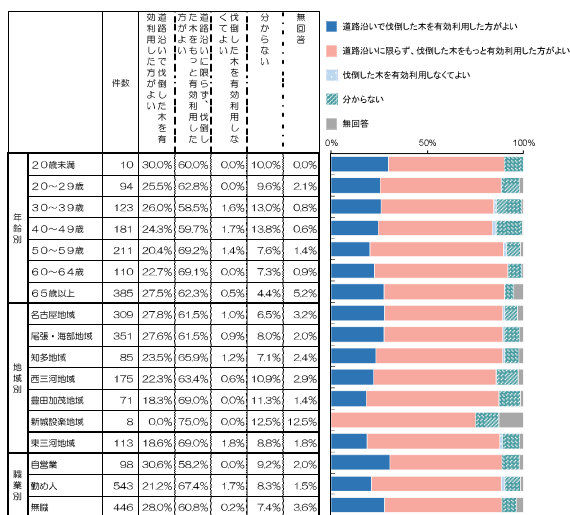


伐倒木有効利用の継続について、「道路沿いで伐倒した木を有効利用した方がよい」(25.1%)と「道路沿いに限らず、伐倒した木をもっと有効利用した方がよい」(63.0%)を合わせた「有効利用した方がよい」と答えた人の割合が88.1%であったのに対し、「伐倒した木を有効利用しなくてよい」と答えた人の割合は0.9%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-34

伐倒木有効利用の継続（年齢別、地域別、職業別）

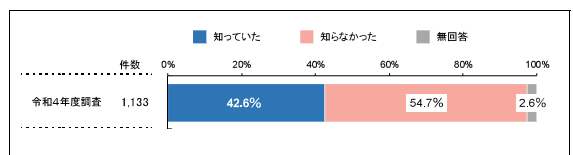


県民-35

Ⅲ-② 花粉症対策苗木への植え替え

(1) 花粉症対策苗木の植栽と公益的機能

問1 苗木を植栽すると森林が若返るので、森林(人工林)の一部の公益的機能が高まることを知っていましたか。



花粉症対策苗木の植栽と公益的機能について、「知っていた」と答えた人の割合が42.6%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は54.7%となっている。

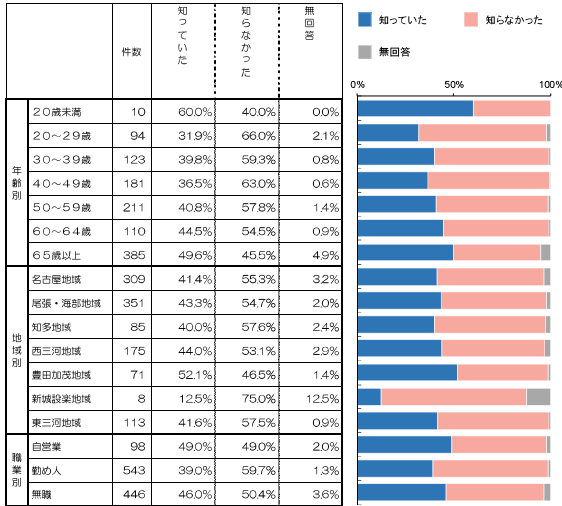
※ この項目は、令和4年度から追加した。

「次世代森林育成事業」

主伐後に行う花粉の少ないスギ・ヒノキ品種や広葉樹（以下、「花粉症対策」という。）の苗木を植栽して若返りを図り、植栽時の獣害対策及び保育等を行う事業

県民-36

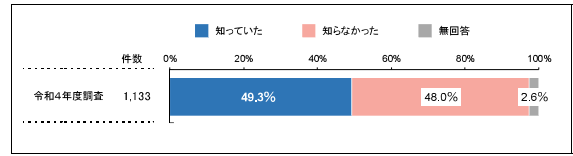
花粉症対策苗木の植栽と公益的機能（年齢別、地域別、職業別）



県民-37

(2) 花粉症対策苗木の植栽とSDGsの関係

問2 森林を岩返らせることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

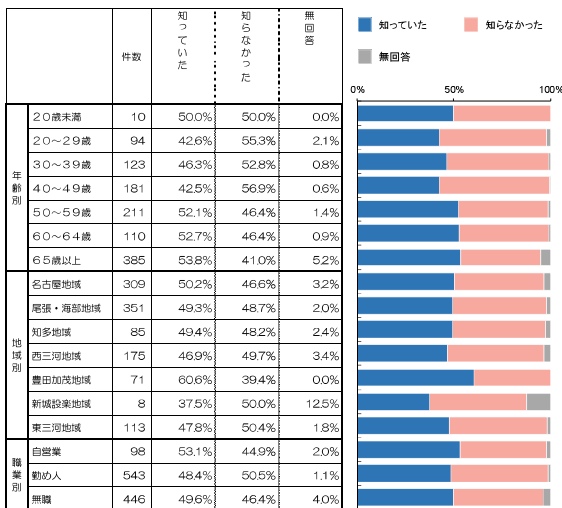


花粉症対策苗木の植栽とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が49.3%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は48.0%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-38

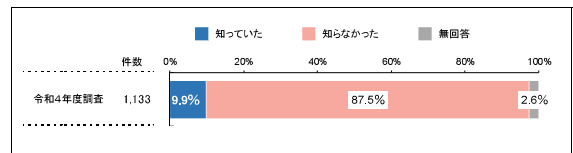
花粉症対策苗木の植栽とSDGsの関係（年齢別、地域別、職業別）



県民-39

(3) 花粉症対策苗木の植栽の認知度

問3 あいち森と緑づくり事業で、花粉症対策苗木への植え替えを進めていることを知っていますか。

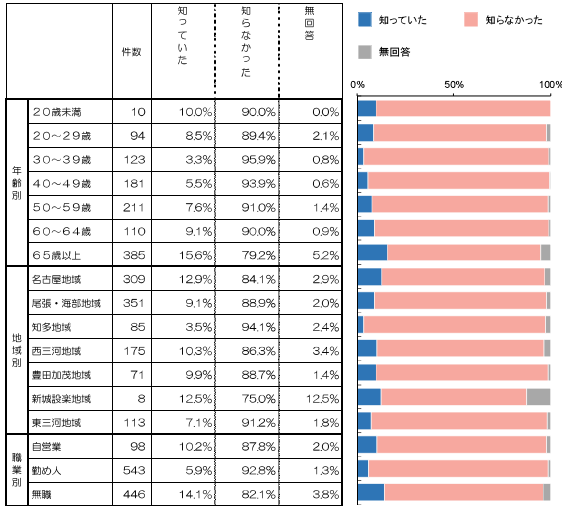


花粉症対策苗木の植栽について、「知っていた」と答えた人の割合が9.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は87.5%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-40

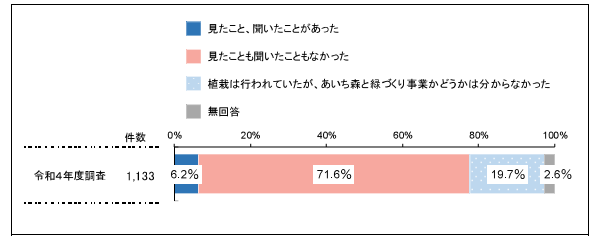
花粉症対策苗木の植栽の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-41

(4)「あいち森と緑づくり事業」による花粉症対策苗木の植栽の認知度

問4 あいち森と緑づくり事業による花粉症対策苗木への植え替えを、見たこと、聞いたことがありましたか。

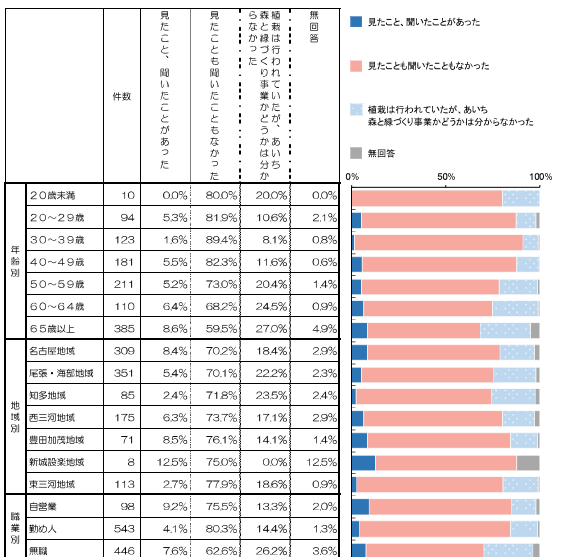


「あいち森と緑づくり事業」による花粉症対策苗木の植栽について、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合が71.6%と最も高く、続いて「植栽は行われていたが、あいち森と緑づくり事業かどうかは分からなかった」（19.7%）、「見たこと、聞いたことがあった」（6.2%）の順となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-42

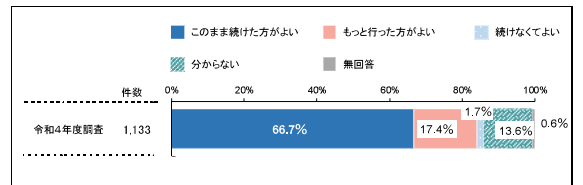
「あいち森と緑づくり事業」による花粉症対策苗木の植栽の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-43

(5) 花粉症対策苗木の植栽の継続

問5 あいち森と緑づくり事業で、今後も花粉症対策苗木への植え替えを続けたい方はいかがでしょうか。

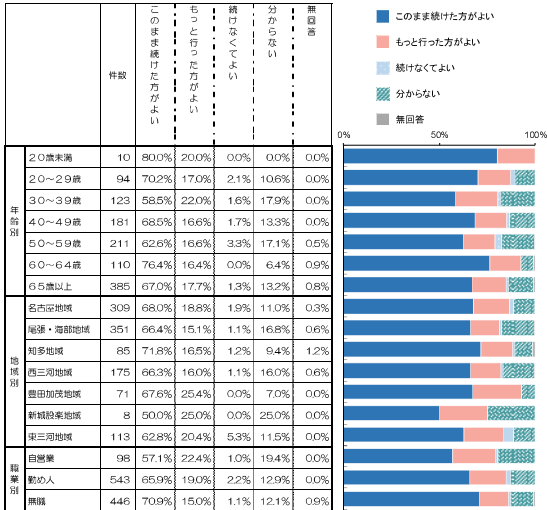


花粉症対策苗木の植栽の継続について、「このまま続けた方がよい」（66.7%）と「もっと行った方がよい」（17.4%）を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が84.1%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.7%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-44

花粉症対策苗木の植栽の継続（年齢別、地域別、職業別）

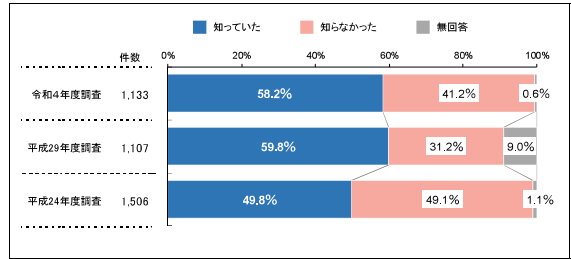


県民-45

IV 里山林整備事業について

(1) 里山林整備による公益的機能回復の必要性の認知度

問1 生活環境の保全や災害の防止、生物多様性の保全などの公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを知っていましたか。



里山林整備による公益的機能回復の必要性について、「知っていた」と答えた人の割合が58.2%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は41.2%となっている。

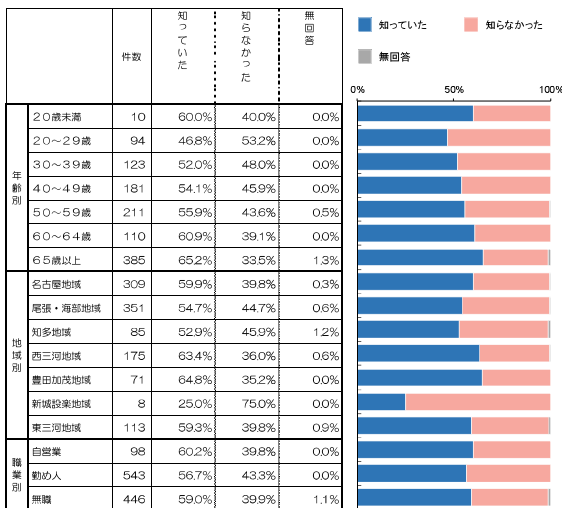
過去の調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は前回調査から大きな変化はみられない。

「里山林整備事業」

放置された里山林を対象に、生活環境の保全や災害の防止、生物多様性の保全などの公益的機能を回復させるため、枯れて危険な木の抜き伐りや侵入竹の伐採などの森林の手入れ、作業道具の導入、作業小屋や管理道などの施設整備を行う事業

県民-46

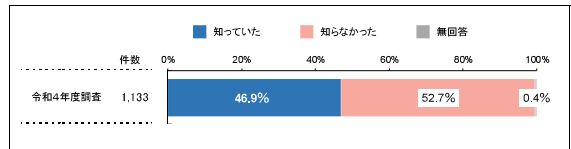
里山林整備による公益的機能回復の必要性の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-47

(2) 里山林整備とSDGsの関係

問2 里山林を手入れすることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

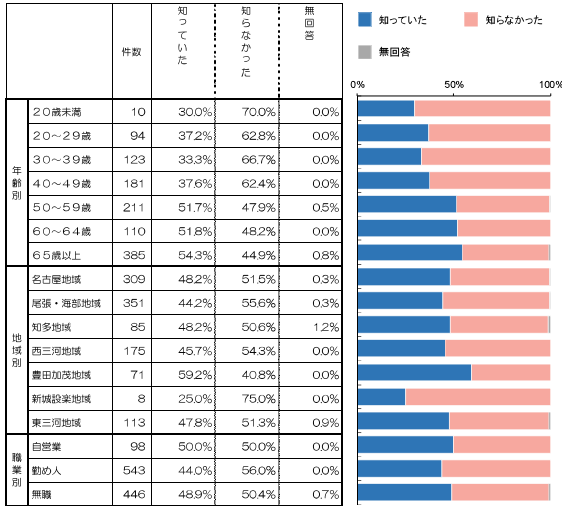


里山林整備とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が46.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は52.7%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-48

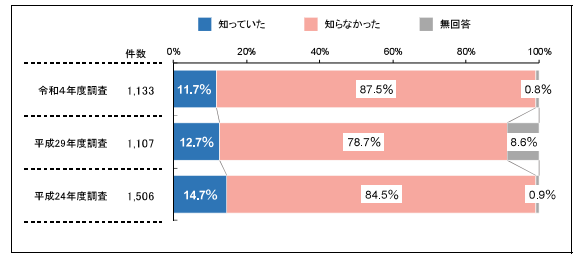
里山林整備とSDGの関係（年齢別、地域別、職業別）



県民-49

(3) 里山林整備事業の認知度

問3 あいち森と緑づくり事業で、里山林の整備をしていることを知っていましたか。

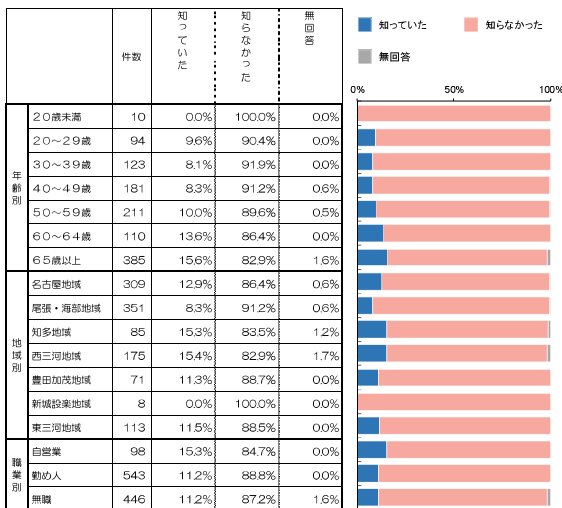


里山林整備事業について、「知っていた」と答えた人の割合が11.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は87.5%となっている。

過去の調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は、平成24年度が14.7%、平成29年度が12.7%となっており、減少傾向がみられる。

県民-50

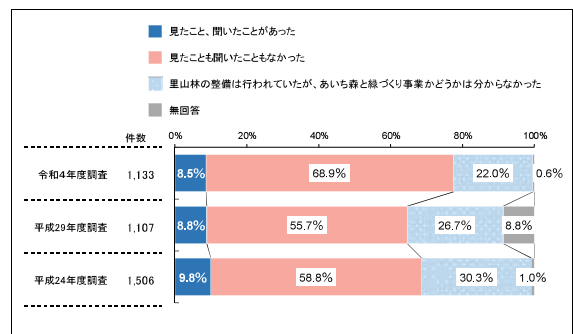
里山林整備事業の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-51

(4) 「あいち森と緑づくり事業」による里山林整備の認知度

問4 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を、見たこと、聞いたことがありましたか。

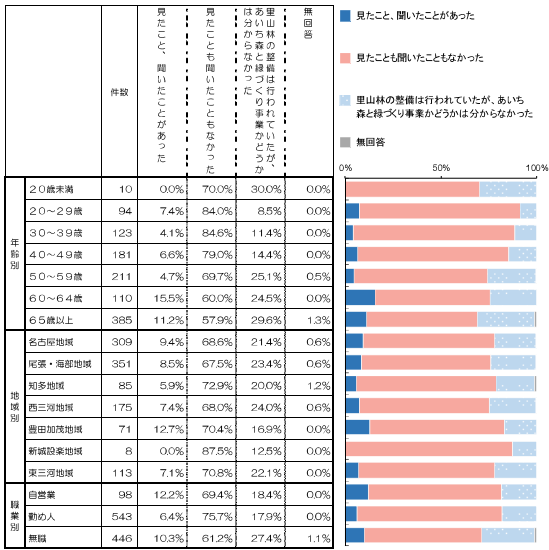


「あいち森と緑づくり事業」による里山林整備について、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合が68.9%と最も高く、続いて「里山林の整備は行われていたが、あいち森と緑づくり事業かどうかは分からなかった」(22.0%)、「見たこと、聞いたことがあった」(8.5%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合が平成29年度(55.7%)と比べて13.2ポイント増加している。

県民-52

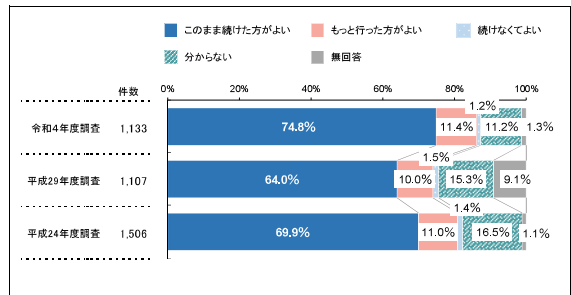
「あいち森と緑づくり事業」による里山林整備の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-53

(5) 里山林整備事業の継続

問5 あいち森と緑づくり事業で今後も里山林の整備を続けた方がよいと思いますか。

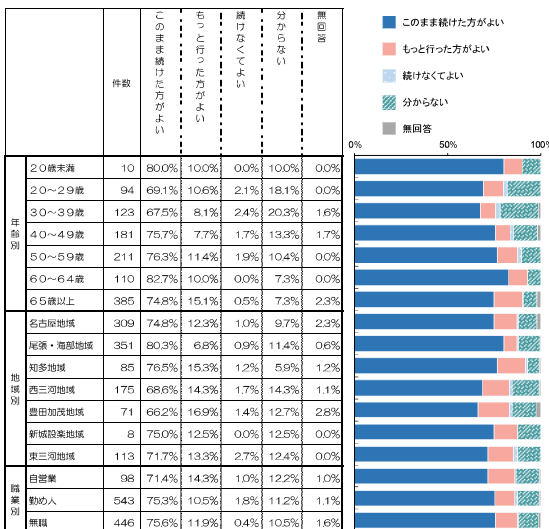


里山林整備事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(74.8%)と「もっと行った方がよい」(11.4%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が86.2%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合が平成29年度(64.0%)と比べて10.8ポイント増加している。

県民-54

里山林整備事業の継続（年齢別、地域別、職業別）

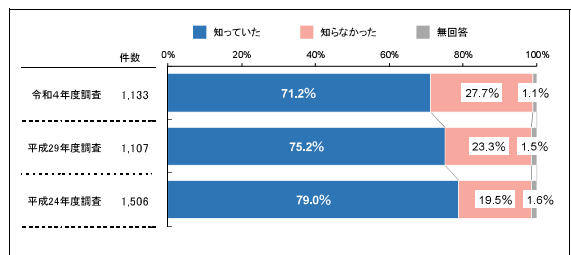


県民-55

V 都市緑化推進事業について

(1) 都市の緑の公益的機能の認知度

問1 都市の緑には「ヒートアイランド現象の緩和」「生物多様性の保全」「火災延焼防止」などの多様な機能があることを知っていましたか。



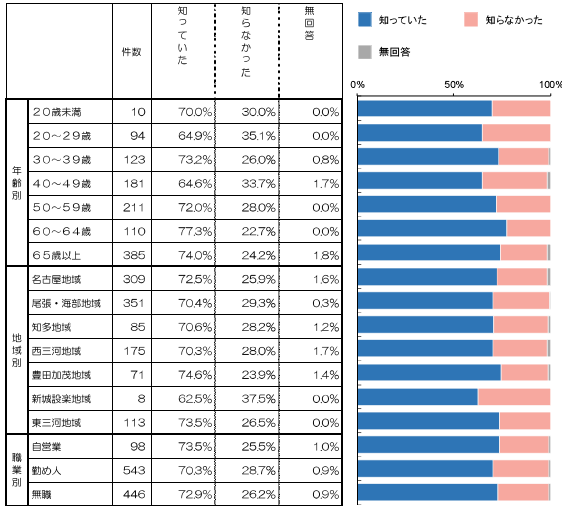
都市の緑の公益的機能について、「知っていた」と答えた人の割合が71.2%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は27.7%となっている。

過去の調査と比較すると、「知らなかった」と答えた人の割合が、平成24年度が19.5%、平成29年度が23.3%となっており、増加傾向がみられる。

県民-56

「都市緑化推進事業」生物多様性の保全やヒートアイランド現象の緩和など、緑の持つ公益的機能を高めるために都市の緑を守り育てるための事業

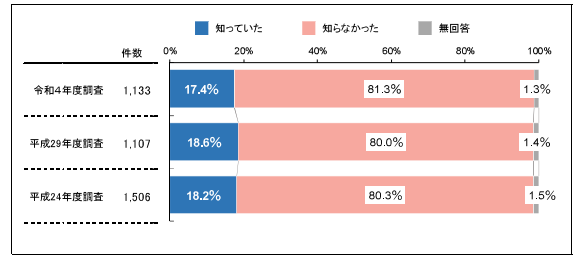
都市の緑の公益的機能の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-57

(2) 都市緑化推進事業の認知度

問2 あい森と緑づくり事業で、都市の緑を増やす取組を行っていることを知っていましたか。

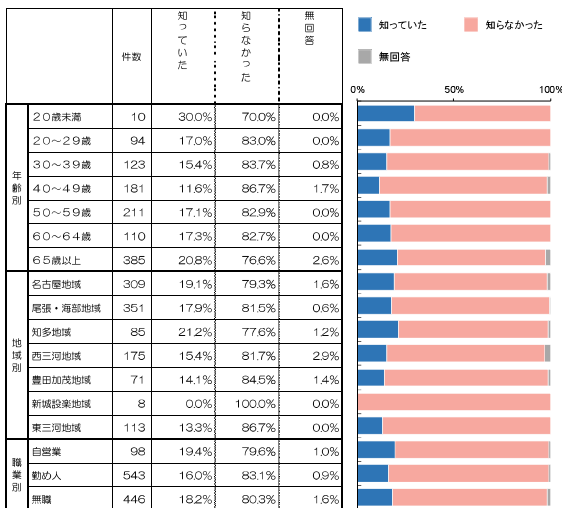


都市緑化推進事業について、「知っていた」と答えた人の割合が17.4%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は81.3%となっている。

過去の調査と比較すると、「知らなかった」と答えた人の割合は前回調査から大きな変化はみられない。

県民-58

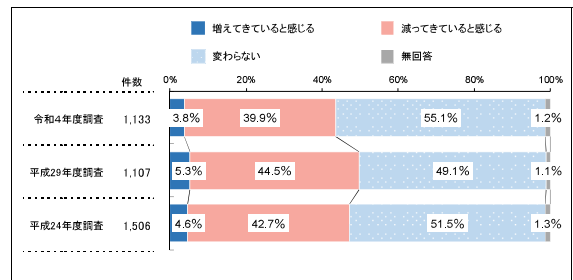
都市緑化推進事業の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-59

(3) 住まいの周辺の緑

問3 あなたの住まいの周辺（半径1～2km程度）の緑についてどのように感じますか。

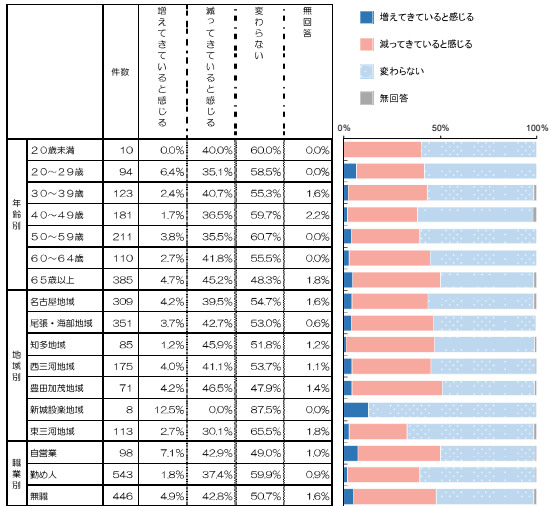


住まいの周辺の緑について、「変わらない」と答えた人の割合が55.1%と最も高く、続いて「減ってきていると感じる」(39.9%)、「増えてきていると感じる」(3.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「変わらない」と答えた人の割合が平成29年度(49.1%)に比べて6.0ポイント増加し、「減ってきていると感じる」と答えた人の割合が平成29年度(44.5%)に比べて4.6ポイント減少している。

県民-60

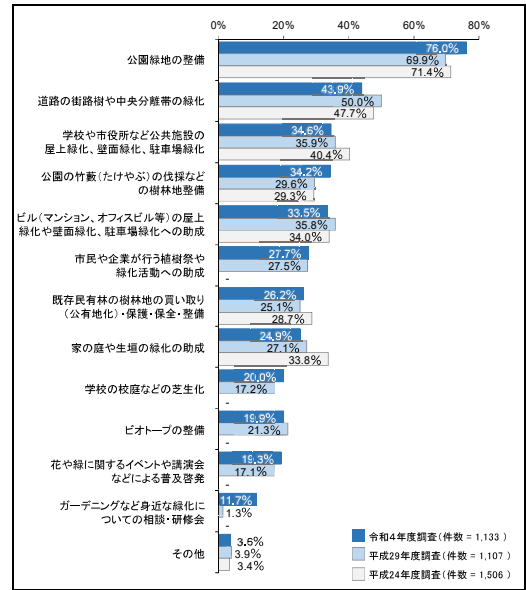
住まいの周辺の緑（年齢別、地域別、職業別）



県民-61

(4) 都市の緑を増やしていくための取組

問4 今後、さらに都市の緑を良くしていくために、愛知県や市町村はどのような取組を行えばよいと思いますか。(複数回答可)



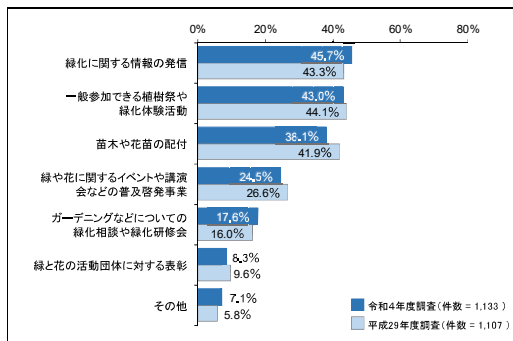
都市の緑を増やしていくための取組について、「公園緑地の整備」と答えた人の割合が76.0%と最も高く、続いて「道路の街路樹や中央分離帯の緑化」(43.9%)、「学校や市役所など公共施設の屋上緑化、壁面緑化、駐車場緑化」(34.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「公園の竹藪(たけやぶ)の伐採などの樹林地整備」は増加傾向、「学校や市役所など公共施設の屋上緑化、壁面緑化、駐車場緑化」、「家の庭や生垣の緑化の助成」では減少傾向がみられる。

県民-62

(6) 都市の緑に関心を持つための取組

問5 あなたが、今よりも都市の緑に関心や関わりを持つためには、どのような取組が効果的だと思いますか。(複数回答可)



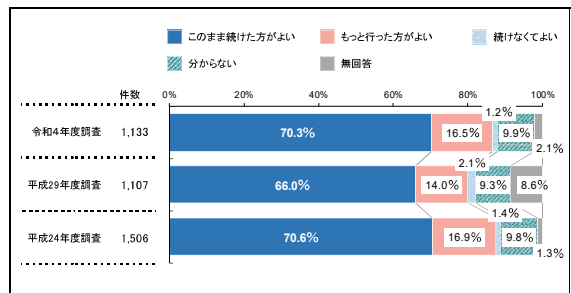
都市の緑に関心を持つための取組について、「緑化に関する情報の発信」と答えた人の割合が45.7%と最も高く、続いて「一般参加できる植樹祭や緑化体験活動」(43.0%)、「苗木や花苗の配布」(38.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの取組についても前回調査から大きな変化はみられない。

県民-63

(6) 都市緑化推進事業の継続

問6 あいみず森づくり事業で今後も都市の緑を増やす取組を続けた方がよいと思いますか。

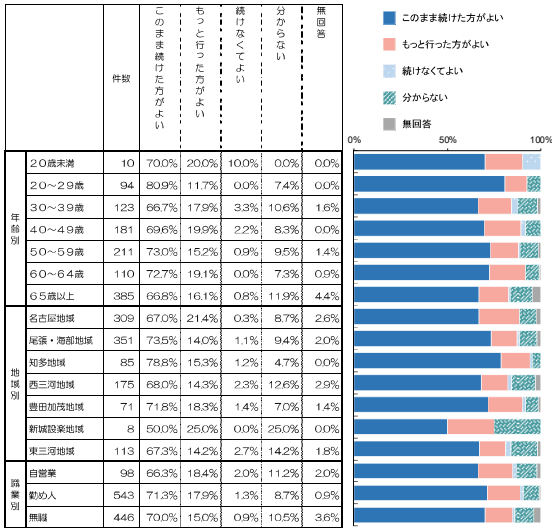


都市緑化推進事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(70.3%)と「もっと行った方がよい」(16.5%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が86.8%であったのに対し、「続かなくてよい」と答えた人の割合は1.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合が平成29年度(66.0%)に比べて4.3ポイント増加している。

県民-64

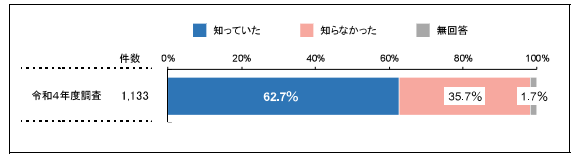
都市緑化推進事業の継続（年齢別、地域別、職業別）



県民-65

(7) 都市緑化の推進とSDGsの関係

問7 都市の緑を増やし守り育てることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

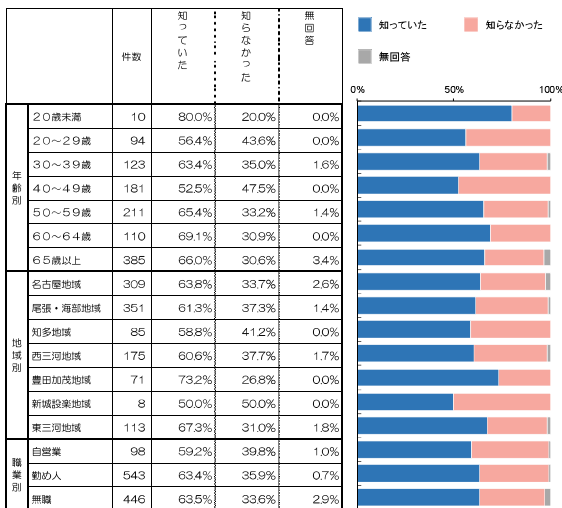


都市緑化の推進とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が62.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は35.7%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-66

都市緑化の推進とSDGsの関係（年齢別、地域別、職業別）

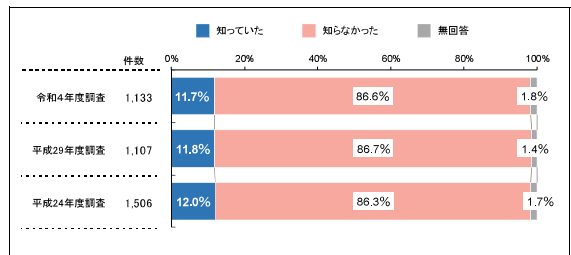


県民-67

VI 環境活動・学習推進事業について

(1) 環境活動・学習事業の認知度

問1 里地・里山などで間伐、下草刈り、植樹などを行う「森と緑の保全活動」や、森林作業の体験教室や自然観察会といった「環境学習」を、あいち森と緑づくり事業で支援していることを知っていましたか。



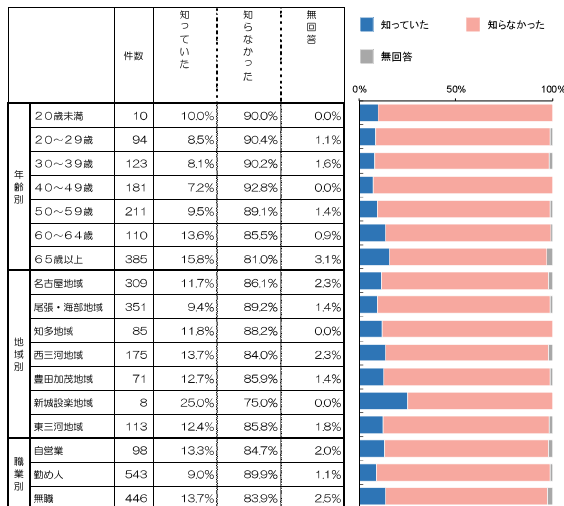
環境活動・学習事業について、「知っていた」と答えた人の割合が11.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は86.6%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度、平成29年度調査同様に、「知らなかった」と答えた人の割合は高く、8割を超えている。

「環境活動・学習推進事業」
市町村やNPO、ボランティア団体等が行う自発的な「森と緑の保全活動」や「環境学習」を公募し、事業実施に必要な経費（資材の購入、外部講師の謝金など）を支援する事業

県民-68

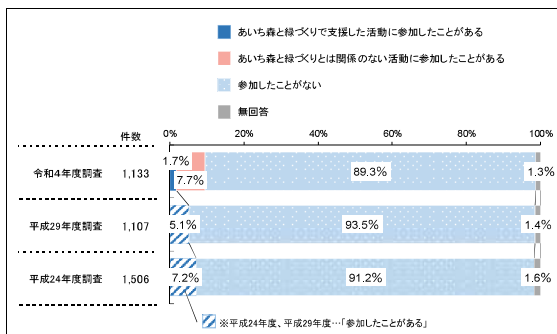
環境活動・学習事業の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-69

(2) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」の参加の有無

問2 これまでに問1のような「森と緑の保全活動」や「環境学習」に参加したことがありますか。

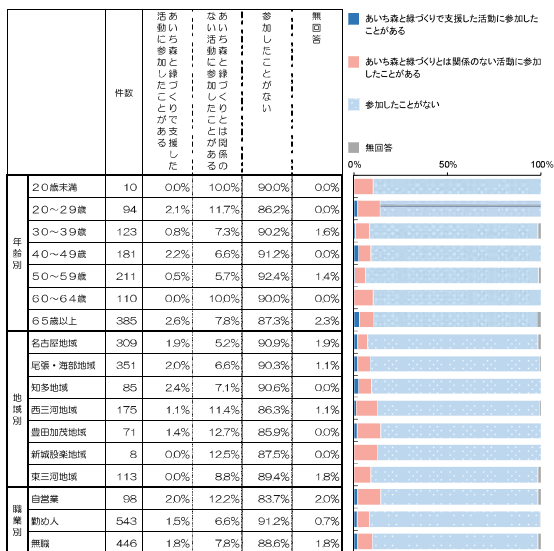


「森と緑の保全活動」や「環境学習」について、「あいち森と緑づくりで支援した活動に参加したことがある」(1.7%)と「あいち森と緑づくりとは関係のない活動に参加したことがある」(7.7%)を合わせた「参加したことがある」と答えた人の割合が9.4%であったのに対し、「参加したことがない」と答えた人の割合は89.3%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度、平成29年度調査と同様に、「参加したことがない」と答えた人の割合は高く、9割前後となっているが、平成29年度(93.5%)に比べて4.2ポイント減少している。

県民-70

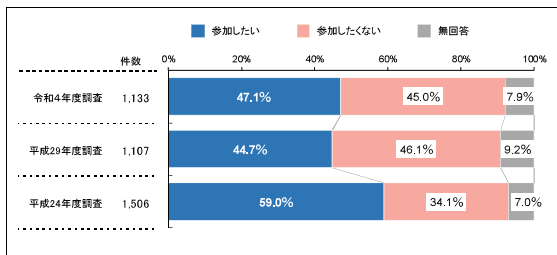
「森と緑の保全活動」や「環境学習」の参加の有無（年齢別、地域別、職業別）



県民-71

(3) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」への参加

問3 あなたの身の回りで問1のような「森と緑の保全活動」や「環境学習」が実施された場合、参加したいと思いますか。

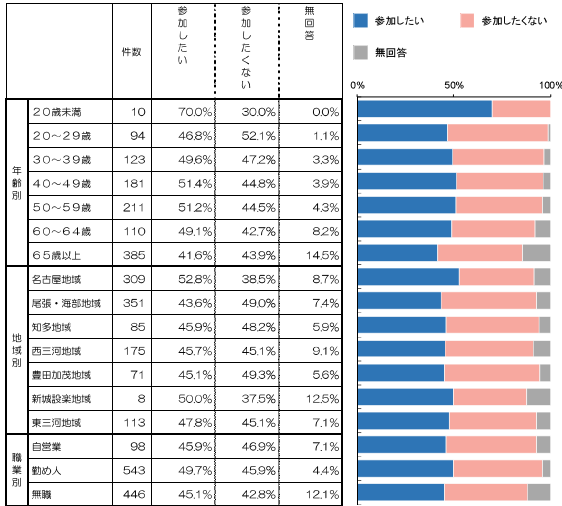


「森と緑の保全活動」や「環境学習」について、「参加したい」と答えた人の割合が47.1%であったのに対し、「参加したくない」と答えた人の割合は45.0%となっている。

過去の調査と比較すると、「参加したい」、「参加したくない」と答えた人の割合は前回調査から大きな変化はみられない。

県民-72

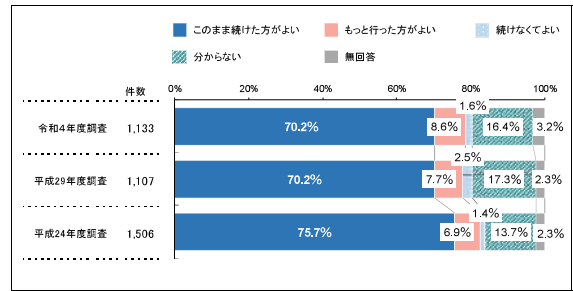
「森と緑の保全活動」や「環境学習」への参加（年齢別、地域別、職業別）



県民-73

(4) 環境活動・学習推進事業の継続

問4 あいち森と緑づくり事業で今後も「森と緑の保全活動」や「環境学習」を行うNPOやボランティア団体等の支援を続けた方がよいと思いますか。

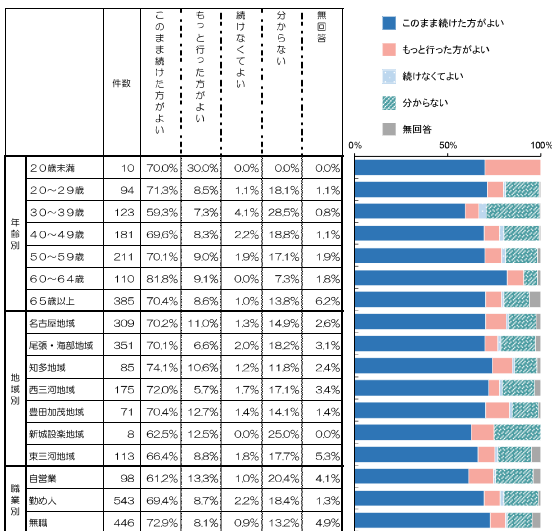


環境活動・学習推進事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(70.2%)と「もっと行った方がよい」(8.6%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が78.8%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.6%となっている。

過去の調査と比較すると、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合は前回調査から大きな変化はみられない。

県民-74

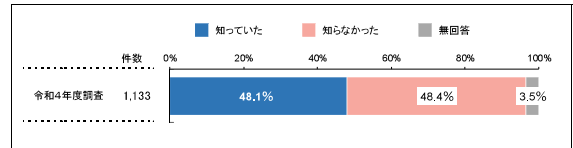
環境活動・学習推進事業の継続（年齢別、地域別、職業別）



県民-75

(5) 「森と緑の保全活動」や「環境学習」とSDGsの関係

問5 「森と緑の保全活動」や「環境学習」は、二酸化炭素吸収量を増やす(カーボンニュートラルの取組に貢献)とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

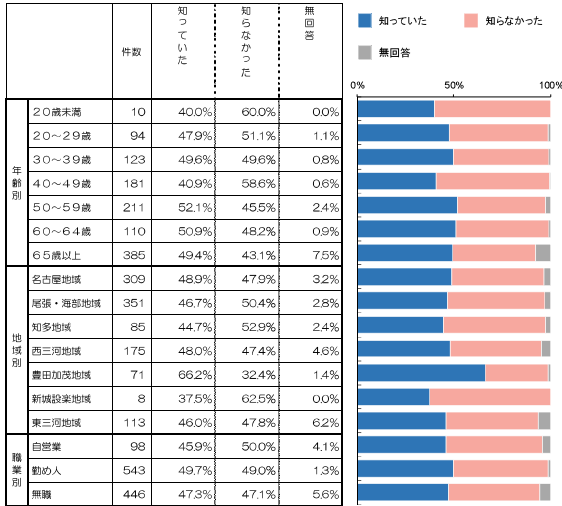


「森と緑の保全活動」や「環境学習」とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が48.1%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は48.4%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-76

「森と緑の保全活動」や「環境学習」とSDGの関係（年齢別、地域別、職業別）



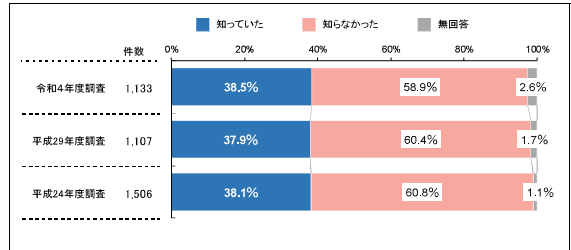
県民-77

VII 普及啓発事業について

VII-① 木材利用促進

(1) 愛知県産木材の利用と森林整備のかかわり

問1 愛知県産の木材製品を使うことが、愛知県内の森林整備につながることを知っていましたか。



愛知県産木材の利用と森林整備のかかわりについて、「知っていた」と答えた人の割合が38.5%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は58.9%となっている。

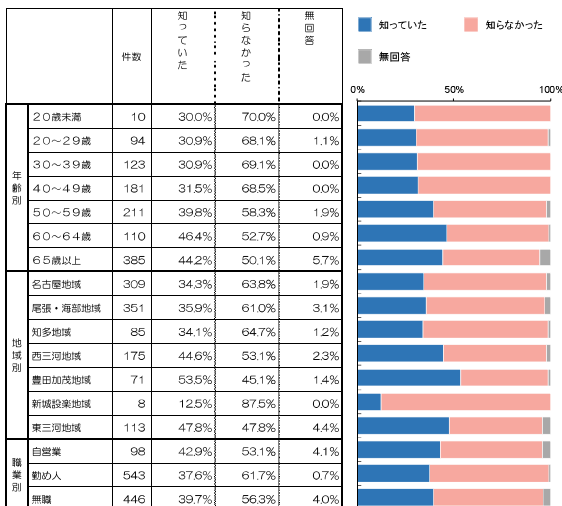
過去の調査と比較すると、「知っていた」、「知らなかった」と答えた人の割合は前回調査から大きな変化はみられない。

「木の香る都市(まち)づくり事業」

多くの県民の方が利用するPR効果の高いモデル的な施設での愛知県産木材の利用（木造化・内装木質化・木製備品の導入）を支援する事業。愛知県産の木材が使われることにより、地域の森林整備が進むことが期待されます。

県民-78

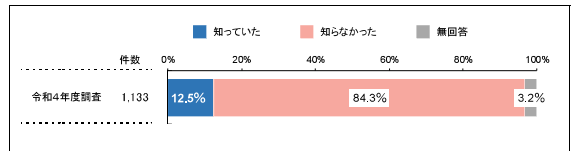
愛知県産木材の利用と森林整備のかかわり（年齢別、地域別、職業別）



県民-79

(2) 木の香る都市(まち)づくり事業の認知度

問2 あいち森と緑づくり事業で、PR効果の高い施設に愛知県産木材を使って木造化・内装木質化・木製備品の導入を進めていることを知っていましたか。

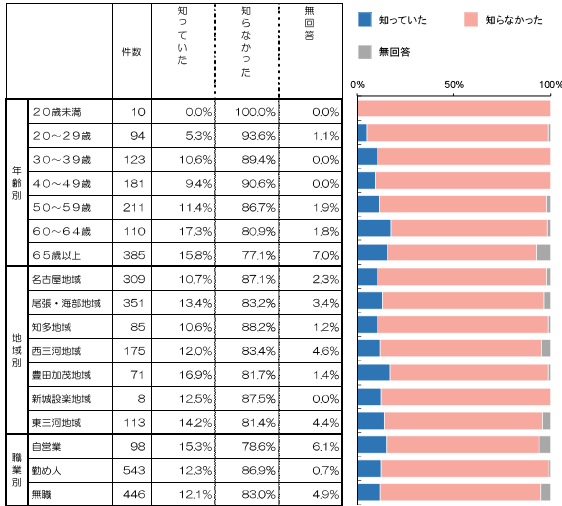


木の香る都市(まち)づくり事業について、「知っていた」と答えた人の割合が12.5%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は84.3%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-80

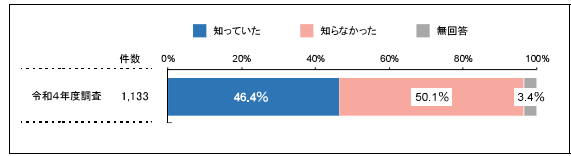
木の香る都市(まち)づくり事業の認知度(年齢別、地域別、職業別)



県民-81

(3) 木材の利用とSDGsの関係

問3 木材を利用することは、二酸化炭素吸収量を増やす(カーボンニュートラルの取組に貢献)とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

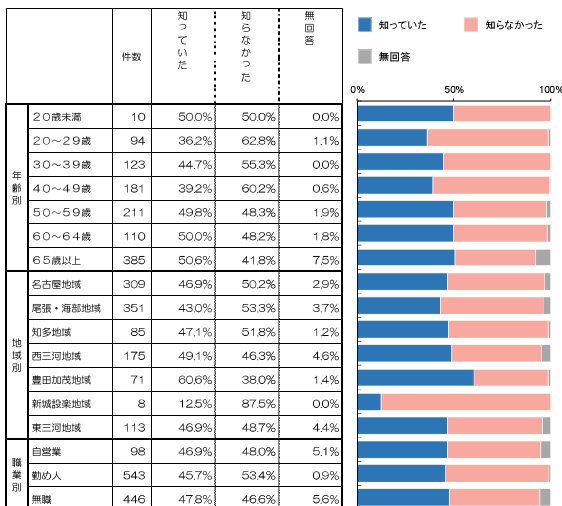


木材の利用とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が46.4%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は50.1%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-82

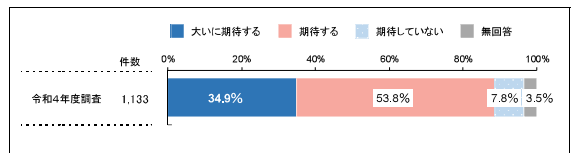
木材の利用とSDGsの関係(年齢別、地域別、職業別)



県民-83

(4) 木材を使った施設への期待

問4 木材の積極的な利用はSDGsにつながる取組として評価されています。市町村以外でも木材を使った施設をつくることを期待しますか。

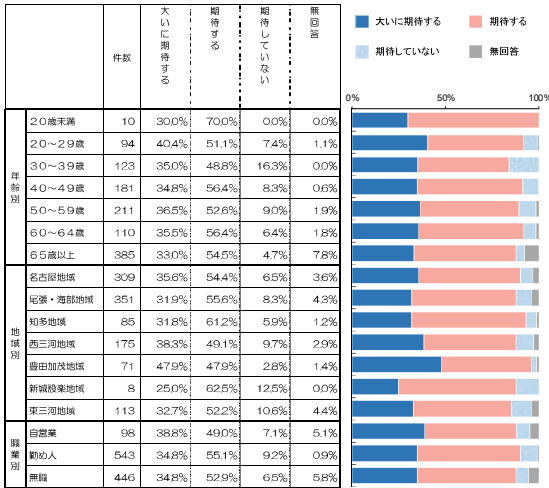


木材を使った施設について、「大いに期待する」(34.9%)と「期待する」(53.8%)を合わせた「期待する」と答えた人の割合が88.7%であったのに対し、「期待していない」と答えた人の割合は7.8%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-84

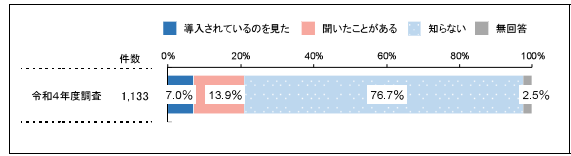
木材を使った施設への期待（年齢別、地域別、職業別）



県民-85

(5) 愛知県産木材の利用の認知度

問5 あなたの周りで愛知県産木材を使った木造化・内装木質化・木製備品などが導入されていますか。

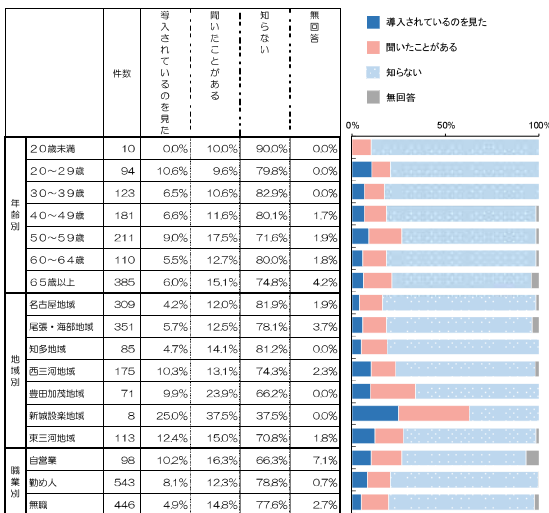


愛知県産木材の利用について、「知らない」と答えた人の割合が76.7%と最も高く、続いて「聞いたことがある」（13.9%）、「導入されているのを見た」（7.0%）の順となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-86

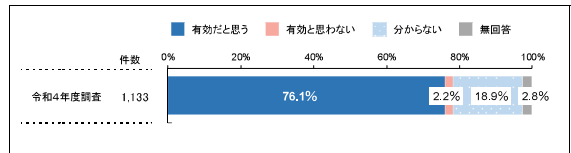
愛知県産木材の利用の認知度（年齢別、地域別、職業別）



県民-87

(6) 愛知県産木材の利用の有効性

問6 愛知県産木材を使った木造化・内装木質化・木製備品などの導入は、森林整備の意義や、木のあたたかさを知るきっかけとして有効だと思いますか。

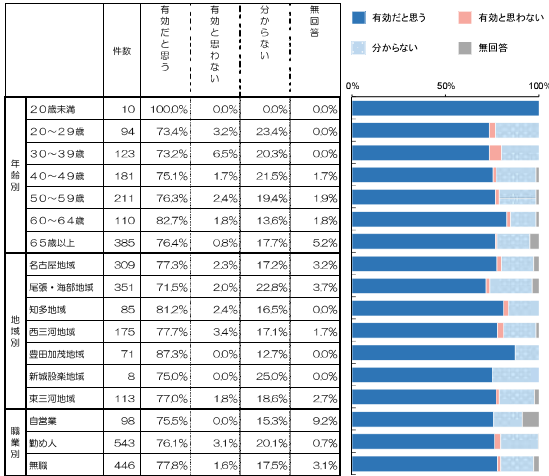


愛知県産木材の利用について、「有効だと思う」と答えた人の割合が76.1%と最も高く、続いて「分からない」（18.9%）、「有効と思わない」（2.2%）の順となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-88

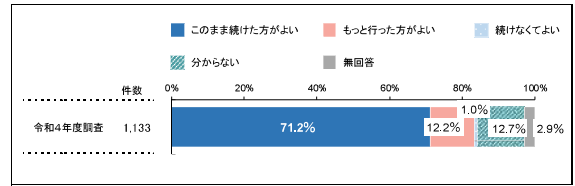
愛知県産木材の利用の有効性（年齢別、地域別、職業別）



県民-89

(7) 木の香る都市(まち)づくり事業の継続

問7 あいち森と緑づくり事業で今後も愛知県産木材を利用する取組を続けた方がよいと思いますか。

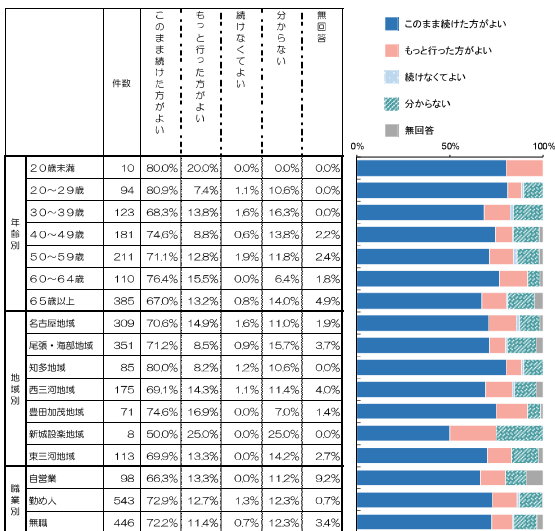


木の香る都市(まち)づくり事業の継続について、「このまま続けた方がよい」(71.2%)と「もっと行った方がよい」(12.2%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が83.4%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.0%となっている。

※ この項目は、令和4年度から追加した。

県民-90

木の香る都市(まち)づくり事業の継続（年齢別、地域別、職業別）

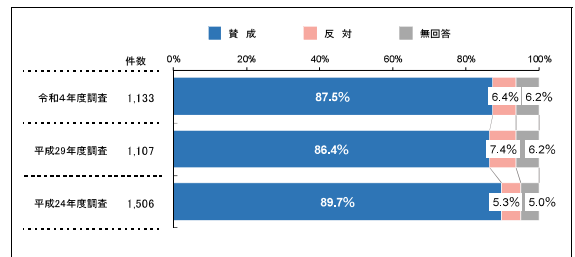


県民-91

Ⅷ 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

(1) 「あいち森と緑づくり事業」の継続

問1 2024(令和6)年度以降も「あいち森と緑づくり税」を継続して、森と緑を守り育てる取組を行うことについてどのように思いますか。

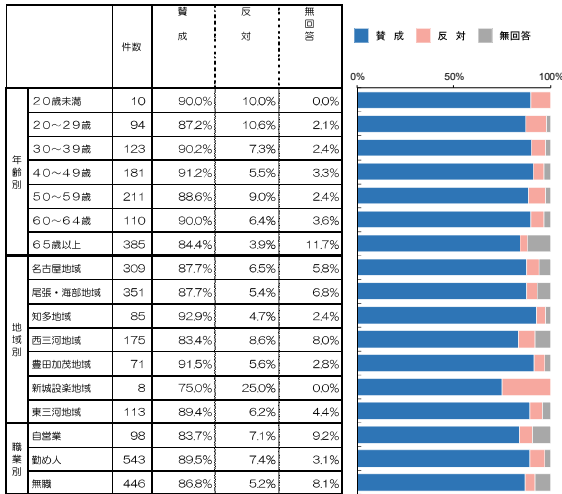


「あいち森と緑づくり事業」の継続について、「賛成」と答えた人の割合が87.5%であったのに対し、「反対」と答えた人の割合は6.4%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度、平成29年度調査同様に、「賛成」と答えた人の割合は高く、8割を超えている。

県民-92

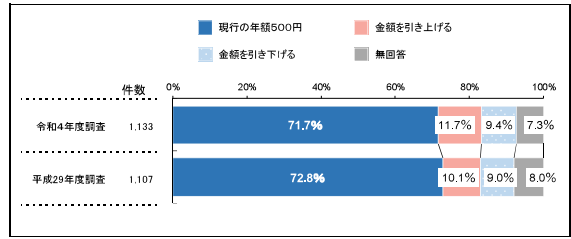
「あいち森と緑づくり事業」の継続（年齢別、地域別、職業別）



県民-93

(2) 「あいち森と緑づくり税」の負担額

問2 「あいち森と緑づくり税」を2024（令和6）年度以降も継続する場合、個人の方の負担はどの程度が妥当だと思いますか。

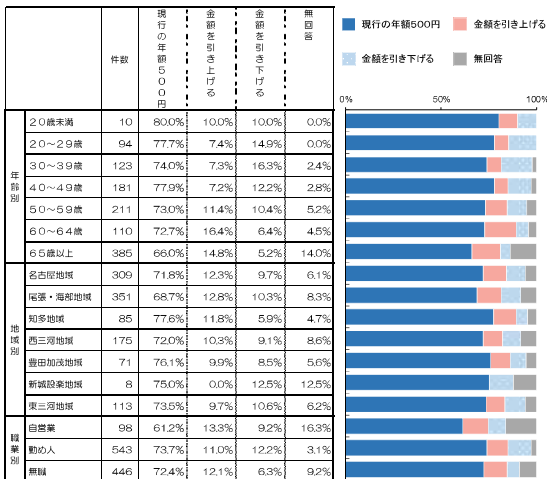


「あいち森と緑づくり税」の負担額について、「現行の年額 500 円」と答えた人の割合が 71.7%と最も高く、続いて「金額を引き上げる」(11.7%)、「金額を引き下げる」(9.4%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「現行の年額 500 円」と答えた人の割合は前回調査から大きな変化はみられない。

県民-94

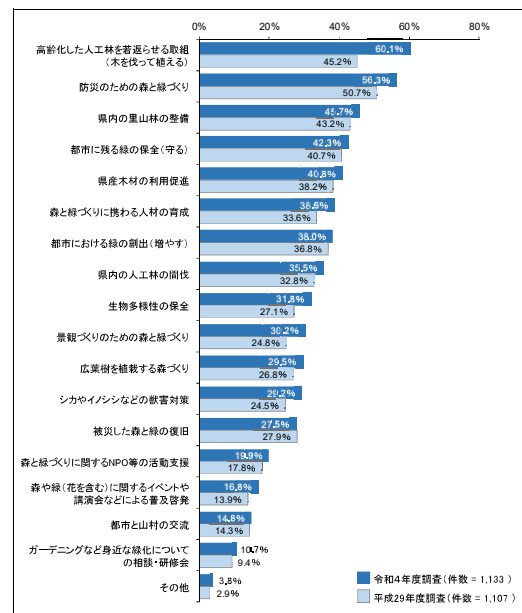
「あいち森と緑づくり税」の負担額（年齢別、地域別、職業別）



県民-95

(3) 「あいち森と緑づくり事業」を継続した場合の取組

問3 「あいち森と緑づくり事業」を2024（令和6）年度以降も継続する場合、どのような取組を行えばよいと思いますか。（複数回答可）



「あいち森と緑づくり事業」を継続した場合の取組について、「高齢化した人工林を若返らせる取組」と答えた人の割合が 60.1%と最も高く、続いて「防災のための森と緑づくり」(56.3%)、「県内の里山林の整備」(45.7%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「高齢化した人工林を若返らせる取組 (木を伐って植える)」と答えた人の割合が平成 29 年度 (45.2%) に比べて 14.9 ポイントと大きく増加している。

県民-96